

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700781		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム新得ふれあい館		
所在地	上川郡新得町西3条南6丁目1-3		
自己評価作成日	令和2年12月13日	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174700781-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174700781-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの入居前の生活歴を大切にし、利用者さんが安心して自分らしい生活がおくれるよう支援している。  
また地域の繋がりを大切にし、地域のイベントなどに積極的に参加している。  
年間の行事に工夫を凝らし、ホーム内でのパイキングやホーム外での焼き肉などを計画し実行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR新得駅近くの閑静な住宅街にあり、桜の名所として多くの地域住民が訪れ、エゾリスやエゾシカなども観察できる新得山を窓から眺望できる豊かな自然に囲まれた地にある。母体法人は多くの福祉関連施設を運営して、事例を共有すると共に、日頃から職員の研修にも力を入れ「身体拘束適正化委員会」を始め各種の委員会を設置しケアの質の向上に努め実践を重ねている。定期的に管理者と職員で理念を見直し、業務内容を常に意識して実践につなげている。町内会行事に参加し交流したり、地域包括支援センターと連携し小学6年生を対象とした「認知症キッズサポーター養成講座」に講師派遣しながら相互に交流を図っていたが、コロナ禍により交流などは自粛している。近くの河川氾濫で避難したり、胆振東部地震による大規模停電の経験より、災害時の自助努力だけでなく母体法人や地域住民の協力の必要性を痛感しているため、今後の災害対策を考えていく必要性を感じている。現在のコロナ禍に対する対策も重要課題で、湿度と温度の管理や定期的な換気、アルコール消毒などで徹底して管理している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の事業所理念を作成し、ホーム内のいつでも目に入る所に掲示している。職員はその内容に基づいた支援を心掛けている。	事業所理念は廊下に掲示し、理念を常に意識しながら、一人ひとりとの関わりを大事にする支援を心掛けている。入職時に説明し、朝礼時の唱和や会議等で全職員は共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入している。町内会のお花見やお祭り、新年会などに参加しており交流を楽しんでいる。また火災等の緊急時に対応していただけるよう、緊急連絡網を作成して頂いている。	町内会に加入し、町内行事に参加して交流を深めたり、事業所のお祭りにも地域住民の参加を得て交流していたが、コロナ禍により自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の小学生を対象とした認知症キッズサポーター養成講座に参加している。授業に講師として参加し児童を招いて交流している。今年度はコロナの為中止となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催し、ホームの活動報告やヒヤリハット等の報告を行っている。意見は記録に残しておき、職員会議で話し合いサービス向上に活かしている。今年度はコロナの為開催できておらず、紙面での対応をさせて頂いている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員や民生委員、町内会等が参加して年6回開催しているが、現在コロナ禍により職員による書面会議を行い、会議報告書は各参加者に送付して意見や要望を得て運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居希望者の連絡調整や入居される方の情報を頂いたりしている。また運営推進会議への参加もして頂いている。包括支援センターが計画する認知症キッズサポーター養成講座のお手伝いをさせて頂いている。	役場とは運営に関する意見や助言を得ている。地域包括支援センターとの連携で小学6年生を対象に「認知症キッズサポーター養成講座」を行い、その後生徒と利用者が交流する機会を設けている。現在はコロナ禍で自粛しているが、規制解除後は再開を考えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や事業所内での研修を行うことによりどの様な事が拘束になるのかを職員全体で認識している。また運営推進会議の時に身体拘束適正化委員会を行っており、話し合った内容を職員に周知している。玄関の施錠は防犯上、夜間職員が1名になった時のみ行っている。	母体法人主催の身体拘束適正化委員会は運営推進会議で開催し、拘束の事例などを含めながら、身体拘束の弊害を学び身体拘束をしないケアに努めている。外に出たい利用者には付き添って歩く等、利用者が落ち着くのを待つ丁寧なケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会社で虐待防止委員会を立ち上げており、社内研修を行うことにより、虐待行為の理解を深め防止に努めている。		

グループホーム新得ふれあい館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者があり、研修に参加している。まだまだ理解を深めていくため、積極的に研修に参加するようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にホームを見学して頂き、面会等を行いホームの説明を行っている。また契約時には全ての内容を読み上げ確認を行っている。疑問点等があればその都度対応させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日々の生活の中でコミュニケーションを図りながら要望を聞く機会を設けている。またご家族とは来館された際や、電話等で話し意見や要望を聞くようにしている。聞いた内容は職員で共有している。	管理者や職員は、利用者と日々の会話から意見や要望を聴いている。家族等によって意向等を聞いていたが、コロナ禍により電話などで意見等を聴くように努めている。また、毎月のホームだよりに個別に手紙を添付して日々の生活実態を知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員とコミュニケーションを図ることにより、意見を言いやすい環境作り心掛けている。意見や提案は、月に一度の職員会議等で話し合っている。	管理者は日々の業務や朝礼、ミーティング時に話しやすい雰囲気作りに努めている。また、職員から個別に意見・要望を聞く機会を心がけ、ストレスや不満の解消に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は一人一人が評価される機会があり、表彰や昇格がある。法人としても手当の増額等に力を入れており、職員のやりがいを引き出すことが出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップ出来るように、社内研修に参加している。研修後は報告書を提出し、職員会議にて報告するようにしている。今年度はコロナの為、社内研修は中止になっている。また社外研修もコロナ感染の危険がある為、参加していない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアカフェ等の参加の機会はあるが、あまり活用できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談やホームの見学等を通して、本人の状態や意向を確認している。入居後は不安を取り除けるよう、話を伺う等して安心して生活できるような関係作りに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時にご家族様より生活歴や入居前の様子、要望や思いを伺っている。入居後も来館された際に話を伺いやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談後に職員会議を開き、職員全員で情報を共有し話しあうことで、要望に応えられる支援方法を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を見極め、一緒に楽しみながら行っている。また出来ないことは支援し共同生活を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来館時や電話等で話をする機会を作り、出来る限りご家族の協力を得ながら、共に支えて行けるように務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やお店に行けるように支援している。また電話で連絡ができるようにしている。現在はコロナの為、外出や面会は控えている。	馴染みある食料品店や呉服屋等がある商店街に行ったりしていたが、現在コロナ禍により自粛している。理美容室を利用していたが感染症予防の為、ホームに來訪して馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でのトラブルが起きないように、スタッフが間に入り配慮している。体操やカラオケ、ゲーム等を行い楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も町でお会いした時には気軽に話し掛けて下さったり、訪問して下さったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で感じ取った希望や意向を出来る限り対応できるように努めている。	日々の関わりの中で出来るだけ声かけをして、思いを把握するようにしている。日頃の言動からも希望や意向を汲み取ったり、家族からの情報を参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族にセンター方式アセスメント表に記入をお願いしている。またご本人やご家族に話を伺ったりもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日のごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や業務日誌などに記録を残している。情報を職員間で共有し、話し合うことにより現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的にご本人と関わる時間を設け、現状のニーズを伺っている。職員会議で話し合うことにより、現状にあったケアプランを作成している。	利用者や家族から希望などを把握し、職員で毎月カンファレンスを行いアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、6か月毎に介護計画の見直しをし、利用者や家族に説明し同意を得ている。状況に変化があればその都度見直し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、状態の変化や気が付いた事などを日誌に記入している。月に1度の職員会議にて担当者が気が付いた事を報告し話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の言葉を大切にし、意見や要望があれば実現出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加し、繋がりを大切にしている。紙芝居ボランティアさんも月に1度来ていたが、現在はコロナ感染予防の為に来っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を大切に、入居後も変わらず受診出来るように支援している。受診は基本的にはご家族に対応して頂いているが、事情がある場合はホームで対応している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医等への受診継続を支援している。その際は基本的には家族対応での受診になっているが、職員が付き添い受診することもある。協力医、歯科医の往診が行われ利用者の健康面をサポートしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度協力医療機関の看護師が訪問し、日常の身体状態等を相談している。電話での対応もしていただいております。適切な受診に繋がるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、面会、退院時に地域医療連携室や医師、看護師に相談し、早期の退院に備えている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した場合の指針を説明し、同意を得ている。また状態に応じて医療機関や行政担当者とも相談し協力をお願いしている。	入所時に利用者と家族に重度化の指針を説明し同意を得ている。看取りは行っていないが、重度化した場合は、利用者、家族、行政担当者で十分話し合い、できる限りの支援を行い、医療が必要になった場合は医療機関にお願いする事もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の備えとしてマニュアルを作成している。今後救命救急講習を受講できるようにしたい。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施し、そのうちの1回は消防署の立会いの下に行っている。町内会にも協力を呼びかけ、緊急連絡網を作成して頂いている。今後、水害などの訓練を実施していきたい。	地震や火災を想定し夜勤時の避難訓練は年2回開催している。消防署の立ち合いはコロナ禍で自粛している。災害マニュアルも常に見直し、災害時の対応に心掛けている。町内会で災害時協力支援のための連絡網がある。	地震時の停電や建物損傷時等、利用者の避難方法や避難経路など様々な想定した複合型災害時の訓練を行う事を期待する。また、備蓄の見直しと、冬期間での暖をどのように取るかも含めた備品を準備することに期待する。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格に合わせた声掛けの仕方をし、プライバシーに関わることは大きな声で話さないよう注意している。	利用者の尊厳や個人情報、プライバシー保護について研修で学んでおり、特に利用者に対して制止するような言葉かけを行わないよう気をつけている他、呼び方にも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の関わりの中から思いや希望を傾聴している。更衣の際の洋服の選択は、簡単に選択出来るように配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞きなるべく対応できるように努めてはいるが、その日の状況によっては対応できない時もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際、好みの洋服を選んでいただいている。コロナにより馴染みの美容室に行くことは難しいが、訪問美容を利用することにより、好みの髪型にしてもらっている。			

グループホーム新得ふれあい館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いやアレルギー等可能な限り把握し、個別に対応している。献立作りの際には食べたいものをお聞きし、献立作り活かしている。食後の片付け等も手伝って頂いている。	栄養士がメニューを考え食材センターから食材が定期的に送られてくる。行事や日・月曜日は自由に作れるため、利用者の希望を取り入れながら食事を支援している。利用者の能力を活用して下準備から後片付け等を手伝ってもらい食事を楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量は毎日チェックし記録している。食事摂取量や水分摂取量が少ない方には、個別で好みの物をお出する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後の歯磨きやうがいを声掛けによって行っている。義歯は毎日夜間に洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事やおやつの前等に、トイレの声掛けを行っている。失禁の多い方は定時にパット等の確認をしている。	利用者全員の排泄状況を把握し、時間間隔や様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレ排泄を支援している。オムツの使用量もチェックするようにして、使用量減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の酷い方は排便状況を把握し、水分摂取を促し、水分不足にならないよう注意している。また連携の看護師や医師に相談し便秘薬の調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を作成し均等に入浴出来るようにしている。その日の体調や気分配慮し、無理強いしないよう心掛けている。また汚染時や希望があれば出来るだけ優先して入浴出来るようにしている。	週2回入浴を目安に、体調や気分配慮し入浴している。気分が乗らない利用者には日時を変えて対応し、心地よく入浴してもらっている。必要によりシャワー浴・足浴・部分清拭での対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や気分配慮しながら自由に休息を取って頂いているが、夜間の不眠に繋がらないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬には全て名前と日付を入れている。また薬剤管理簿でいつでも確認できるようになっている。薬の変更等があった場合は、必ず記録するようにし職員全体に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会や年間行事で楽しい時間が持てるように工夫している。また個々に気分転換出来るよう支援している。食後の片付けや洗濯干し等、出来る事は積極的にされている。		

グループホーム新得ふれあい館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りご本人の希望に応じられるように配慮はしているが、厳しい時もある。ホームでの対応が難しい等は、ご家族に協力をお願いしている。	近隣への散歩や管内のデパートへの買い物、近郊都市への美味しい食事や観光目的にワゴン車でドライブしたりしていたが、コロナ禍により自粛している。自宅を見たいと希望する利用者には感染症対策を施して、家族の協力で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金はホームにて管理させて頂いている。ご本人の意向も考慮し、ご家族にも相談の上、少ない金額をご自分で管理されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば気軽に電話出来るようになってはいるが、相手の都合も考慮しながら行っている。手紙も希望がある時は出せるように支援している。また携帯電話を持たれている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝掃除を行い清潔を心掛け、不快の無いように努めている。ホームの食卓の窓からは新得山を見ることが出来、季節の移り変わりを目で楽しむことが出来る。リビングや玄関前の壁に、利用者と一緒に作成した工作やカレンダーを掲示している。	非常口の外にテラスがあり夏にはテラスで楽しんでいる。居間では利用者各々はテレビを見たりお茶を飲んだり寛いでいる。窓から見える新得山は四季折々の風景を望むことができ楽しんでいる。広い廊下には職員と利用者が一緒に作成した作品や四季を感じる飾り付けをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外にベンチを置いており、一人になりたい時や、気分転換をしたい時に自由に利用出来るようになっている。リビングは憩いの場になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの家具を持ってきていただき、設置に関してはご本人やご家族と相談している。壁に写真を飾ったり、好きな小物を置いたりし、安心して過ごせる空間になっている。	居室には馴染みのタンスや仏壇、家具類を持ち込み、家族の写真や手作り品などが飾られ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。利用者と家族が相談して家具やベッドの配置を決め、安心できる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の部屋が分かるように、居室の前に名前を書いた紙を貼っている。食卓の椅子にはそれぞれの座布団を敷いており、ご自分の椅子が分かるようになっている。歩行が不安定な方には、手すりを多く付けさせていただく等の工夫をしている。		